

# KAWAWADA INDUSTRIES, INC.

心、奮える場所

RECRUITING GUIDE







3つの事業分野で  
技術力を発揮。  
安全で快適な街づくりに  
貢献しています。

# BUSINESS FIELD

技術の川田



**橋梁** アーチ橋、トラス橋、斜張橋など、さまざまな形式の橋梁の設計、製作、施工を行っています。橋梁建設のリーディングカンパニーとして、東京ゲートブリッジ、レインボーブリッジなど数多くのビッグプロジェクトに参画。世界一の支間長を誇る吊橋、明石海峡大橋にも川田の技術が生かされています。近年需要が高まっている鋼とコンクリートの複合構造橋梁にも強みを持ち、高速道路や鉄道橋の実績も多数。台湾新幹線C250工区の大規模送り出しなど、活躍の舞台は世界にまで広がっています。

**鉄構** ランドマークと呼ばれるさまざまな超大型鋼構造物の鉄骨製作、建方工事を行っています。首都圏エリアでは、東京ミッドタウン、モード学園コクーンタワー、六本木ヒルズなどの超高層ビルの鉄骨を製作。大空間架構建築物の分野では、東京ドームをはじめ国内の主要ドームやスタジアムの建設プロジェクトに参画しています。国内3カ所の工場すべて、国土交通大臣が認定する最上級位のSグレードを取得していることが川田の強み。工場では、熟練の技術スタッフが最高品質の建築鉄骨を世に送り出しています。

**建築** 鋼構造物のスペシャリストとして、ローコストかつ短工期をかなえる産業用施設のシステム建築、マンションや公共施設など中高層の一般建築、牛久大仏に代表される特殊構造物の建築を行っています。安心して快適な製品やサービスを提供するだけでなく、多様化する市場ニーズにも対応。屋上緑化システムや地中熱空調システム、太陽光発電といった環境商品も取り扱っています。私たちは、これらの総合的な取り組みを「KBS (Kawada Building Systems)」と総称。さらなる顧客満足の上を目指しています。

## 営業

橋梁部門は国や高速道路会社、鉄構部門はスーパーゼネコン、建築部門は企業がお客さま。所属部門によって営業先は違っても、川田工業の技術やサービスをPRして、実績の幅を広げていく役割は同じです。受注後は、お客さまと、設計・製作・工事の間の橋渡し役となり、完成まで責任を持って進捗を見届けていきます。

## 設計

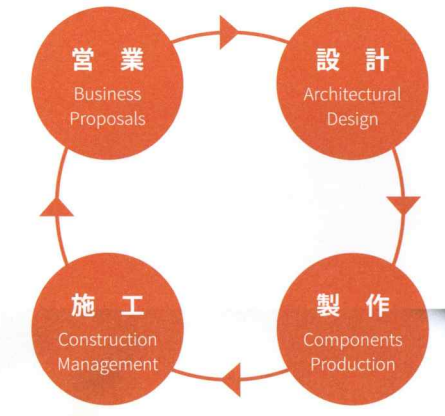
基本計画や基本設計をもとに、実際に製作・工事を行うための設計照査や詳細設計を行います。営業と一緒にお客さまのところに伺って打ち合わせを行うこともしばしば。お客さまの要望を設計に反映するだけでなく、製作のしやすさや、工事のやりやすさについても社内で検討を重ねながら詳細設計にあたります。

## 製作

富山県南砺市の富山工場をはじめ、栃木県大田原市の栃木工場、香川県多度津町の四国工場の3工場を保有。各工場の特徴を活かし、大型橋梁や合成床版、建築鉄骨などの鉄構製品を製作しています。設計から届いた図面をもとに、生産技術・品質管理などの技術管理を行うのが製作スタッフの仕事です。

## 施工

橋梁の架設工事、大規模建築物の鉄骨建方工事、システム建築や一般建築の建築工事を行うのが施工部門です。工事計画を立てる工務課と、工事現場において品質・工程・安全管理等を行う工事課があります。いずれも、各種工事に必要な材料や機材を段取りし、高品質な製品を安全に納期内に完成させることが目的です。



# WORK FIELD

人の川田



それぞれの分野で  
個々の能力を發揮。  
技術創出のDNAが脈々と  
受け継がれています。

# 大規模更新プロジェクトのメンバーが語る 川田のDNAと未来

1964年の東京オリンピック開催に合わせて整備された首都高速道路1号羽田線は、運用から50年以上が経過。栈橋区間の橋桁と水面の空間が極めて狭く、腐食や損傷が発生している。また、空間の狭さゆえに点検・補修が極めて困難なことから、首都高速道路株式会社は、長期耐久性と維持管理性に優れた構造に造り替える大規模更新工事に踏み切った。今回の東品川栈橋・鮫洲埋立部更新工事区間の延長は約1.9kmで、2020年の東京オリンピック開催までの暫定運用を目指している。迂回路を整備して、通行止めを行うことなく、新しい道路に造り替えるという前代未聞のビッグプロジェクトに臨むのは、9社から成る異職種建設工事共同企業体（JV）。高速道路の地下部を担当するのは土木グループ、橋桁などの地上部を担当するのが川田工業を幹事会社とする鋼橋グループだ。それぞれのグループが得意分野の技術力を発揮して、大規模更新工事を着々と進めている。



**施工管理** 山田 隆司 RYUJI YAMADA  
鋼構造事業部 工事部 東京工事課  
2015年入社

**監理技術者** 江野本 学 MANABU ENOMOTO  
鋼構造事業部 工事部 東京工事課  
1992年入社

**設計** 石川 誠 MAKOTO ISHIKAWA  
鋼構造事業部 技術部 東京技術課  
2003年入社

**施工管理** 亀田 兼章 KENSYO KAMEDA  
鋼構造事業部 工事部 東京工事課  
2010年入社

## 大規模プロジェクト成功のカギは「調整」と「連携」。

**石川** 鋼橋グループの監理技術者としては、土木グループとの調整がとても大変なのではないですか？

**江野本** 工事を進めていくためには、発注者の首都高速道路(株)をはじめ、土木グループ各社、鋼橋グループ各社との調整は欠かせない。もちろん川田工業内の設計部門や製作部門とのやりとりもある。それぞれの立場や意見に配慮しながら協議して答えを出し、工事を前に進めていくのはかなり大変だけど、それが私の役割だからね。設計も調整に苦労したのでは？

**石川** 首都高速道路(株)の中でも大規模な架け替えなので注目度が高く、多くの人がさまざまな意見を持っていて、なかなか決まらないことが多かったですね(笑)。とはいえ工事が遅れることは許されないので、打ち合わせ時に分かりやすい資料を作成して先方が選択できるように工夫しました。

**亀田** 水中に干渉物があって、橋の設計を見直したことがありましたよね。

**石川** 工事中に分かることもあるから、施工管理を担当している亀田さんや山田さんとのコミュニケーションは欠かせません。施工しづらいところはないか、確認しながら詳細を設計します。もちろん、部材を加工する工場とも連絡を取り合っ、意見を聞きながら図面に反映していますね。橋桁は鋼材ですが、路面の下の床板の部分はコンクリート。川田グループ各社の知恵も借りながら連携して進めています。

**山田** 一つの目的を達成するために、この工事に関わる一人ひとりが一体となって協力して工事を進めているところに、醍醐味を感じますね。

## 安全で確実な工事の実現は段取りが9割。

**江野本** 迂回路や作業ヤードの設置、地下部の基礎や橋脚などの工事が土木グループの担当。地上に見える橋桁などを建設するのが鋼橋グループの役割。川田工業に課せられた使命は、鋼橋グループのリーダーとして、安全に十分配慮し、決められた期日通りに工事を終わらせること。

**石川** そのためには、段取り9割ですね。

**江野本** そう。

**山田** 作業方法の検討から、仮設計画、重機の手配、資材の調達、作業スペースの確保など、作業員さんが安全に作業するための準備をするのが私たち施工管理の役割。工事する上での問題点を洗い出して、あらかじめ対策しておくことが大切です。

**亀田** 実際に作業するときに危険があってはいけないので、作業員さんからも意見やアイデアももらっています。

**山田** 例えば鋼桁をクレーンで吊り上げる場合、ワイヤーを使って吊上げる際に使用する吊上げ専用の吊金具を鋼桁に設置する必要があります。吊金具以外にも足場を設置するための金具や鋼桁を施工誤差内につなぎ合わせる設備等、そういった細かい部分についても、設計の石川さんを通して工場に連

絡しておかなければなりません。

**石川** 工場は工場で生産計画を立てて動いているので、急な条件変更があった場合は、すぐに連絡するようにしています。

**亀田** 重機を置くスペースを用意しても、重機を入れる導線が確保できていなければ工事ができないので、作業ヤードを担当する土木グループとの交渉が必要です。工種によって工事方法が違うから、具体的に一つひとつの作業をイメージすることが大切ですね。

**江野本** 施工管理の仕事は、何か起きても対応できるように、さまざまなケースを想定して対策を準備することが大切。一つの結果に対して3通りくらいのやり方を考えながら進めてほしい。そうすればいざというときに臨機応変に対処できるからね。

**山田** 江野本さんのところに相談に行くときは、絶対に自分の考えを持ってからじゃないと叱られますからね(笑)。

**亀田** 私も一つの考えで突っ走ってしまうほうなので、江野本さんのように修羅場を潜り抜けて、じゃな

くて、豊富な経験を積んで(笑)、どんなことにも対応できるようになりたいですね。

**石川** 今回は工事のときに「橋脚と橋脚の間が実は長かった」という事態も想定して、江野本さんと相談して橋を長めに製作。現場で調整できる仕様になっています。それも含めて、段取り9割だと思います。

**亀田** できるだけ次の工事に影響が出ないよう、出来形管理はしっかり行っていますね。作業員にミリ単位の指示をすることもあり、出来上がってからやり直すことのないよう指示のタイミングにも配慮しています。

**江野本** すべては工事を順調に進めるため。工期は絶対に延ばせないで、これからも頑張ってください。

## 貴重な経験がノウハウとなり川田の未来につながっていく。

**江野本** これから橋脚の基礎工事が始まるけど、橋脚の精度管理は最も重要だから、注意を払って取り組んでほしいね。

**石川** 設計の方は橋脚部分が終わり、製作部門が

部材をつくっています。それがいよいよ組み上がっていくと思うと、うれしくなりますね。施工しやすいように考慮して設計していますから、安心して工事を進めてください。

**江野本** これほどの大規模工事はなかなか経験できない。やりがいは大きいと思うけど、皆はどう感じているかな？

**亀田** 全体の完成までにはまだ時間がかかりますが、一つひとつの工事が終わって撤去完了や架設完了という節目節目には、達成感がありますね。

**山田** 古いものを壊して新しいものをつくる。今までに経験したことのない更新工事なので、毎日が新鮮です。この工事を無事に終えることができれば、自分にも自信がつくと思います。土木分野はこれから建設IT(情報技術)や建設ロボットなどの導入により、大きな変革が予想されています。そんな新しい時代に活躍できる人材になりたいですね。

**亀田** 先輩方が川田工業を橋梁分野のリーディングカンパニーとして発展させてきたので、私たちはその技術とDNAを受け継いで未来につなげたいです。

**江野本** 橋梁の建設周期をみても、これから更新工事が増えると思う。

**亀田** 周囲の環境やメンテナンス性、耐久性も熟知したうえで新しいものをつくる仕事は、新しいところに新しい橋を架ける仕事よりも高レベルの技術力が必要ですね。そう考えると、このプロジェクトは貴重な経験だと思います。

**江野本** これからは君たち若い技術者に川田の未来を創ってほしい。期待していますよ。





**山上 達也** TATSUYA YAMAGAMI  
建築事業部 工事部 工務課  
2008年入社

**柴宮 悠弥** YUYA SHIBAMIYA  
建築事業部 工事部 工事課  
2014年入社

**五十嵐 透** TORU IGARASHI  
建築事業部 営業部 営業課  
2016年入社

**柴田 稚菜** WAKANA SHIBATA  
建築事業部 設計部 設計二課  
2017年入社

【建築事業 特集】

建築若手社員クロストーク

建築ビジネスの可能性

建築事業部では、橋梁・鉄構分野で培ってきた高い技術力を生かして、中高層の一般建築や、牛久大仏に代表される特殊構造物を多数手掛けてきた。1991年には米国のメタルビル技術を導入。それを独自に進化させてシステム建築技術を確立した。現在では大空間の生産施設や物流施設の建築に広く貢献している。

川田工業の建築ビジネスの魅力を教えてください。

**山上** 建築事業部の主力商品は、工場や倉庫などのシステム建築。軽快で経済的な大空間を実現できることが特長です。

**柴田** 提案から設計・施工・アフターメンテナンスまで一貫して提供できることも「売り」ですよ。

**五十嵐** 短工期で、低価格・高品質を実現する当社のシステム建築ですが、まだまだ認知度が低いのが難点。生産工場や物流倉庫の新築ニーズがあるときに、システム建築が当たり前の選択肢と

して土俵に上がるよう、PR活動を続けています。

**山上** 認知度が低いということは、これから広がる可能性があるということだよ。

**五十嵐** そうですね。システム建築の未来を拓くためにも、私たち営業がもっと頑張らなくてはならないと思っています。

**柴田** 商品の将来性も魅力的ですが、社内の連携の強さも建築事業部の良さ。営業、設計、工事の人が一体となって、お客様の要望をかなえるために協力しているところが、いいなと思います。

**五十嵐** 確かに、営業と設計が一緒にお客さまのところに打ち合わせに行くし、工事に入ってから営業と設計がずっと関わっているし...。「皆で



一緒に」っていう感覚がありますね。

**柴宮** 工事現場では、各部署とのつながりはもちろん、施工を担当する協力会社さんとの人間関係も大切にしています。全員の協力があるからこそ、安全な施工、高品質な建物が実現し、エンドユーザーに喜んでいただけるのだと思います。

**山上** お客様にとっても、働く人にとっても、「いい仕事」ができる。それが川田の建築ビジネスの魅力ですね。

営業、設計、工事、工務。  
それぞれの仕事内容を教えてください。

**五十嵐** 私は営業を担当しています。お客様のニーズをヒアリングし、設計部や見積購買部の人と協力しながら提案書を作成。受注後は、設計、工事、引渡しまで進捗を見守ります。

**柴田** 設計二課に所属し、システム建築の意匠設計を行っています。提案するための見積設計や、受注した案件の実施設計が主な仕事。お客様の要望に沿って、間取りや外観・内観を自由にデザインしていくのですが、標準のディテール集があるため、スピーディに設計できることがシステム建築の特長です。

**柴宮** 私はマンション建築の施工管理を担当。工程、品質、安全、コスト、人材をトータルにマネジメントして、決められた工期に設計図通りの



建物を完成させることが私たちの使命です。所長や先輩の指導のもと、協力会社の職人さんたちと一緒に工事を進めています。

**山上** 工務課では、見積書の作成や受注のための工程表と総合仮設計画図（現場における資材、工事車両の配置などを示したもの）の作成、また各現場の所長から送られてくる作業報告書の管理など、幅広く手がけています。工事の全体像を把握し、進捗状況に合わせた情報収集や現場のサポートを行うことが私たちの仕事です。

仕事をしていてどんなときに  
やりがいを感じますか？

**五十嵐** 自分が担当した物件が完成して、お客さまに喜んでいただいたときですね。大きなトラブルもなく無事に工事が終わってホッとする気持ちなど、更地だったところに大きな建築物ができた感動も重なって、大きなやりがいを感じます。

**柴田** 初めて実施設計を行い、図面が出来上がったときは、うれしかったですね。実施設計には、法律や建築の専門知識が必要です。計画図を基に仕様を決め、建築基準法や自治体の関連法規をしっかり確認して、基本設計を行わなければなりません。入社1年目からそんな重要な仕事にチャレンジさせていただき、とても勉強になりました。

**五十嵐** 若いうちに責任ある仕事を任せられるのも当社の特長ですね。

**山上** 建築事業部は100人規模の組織なので、一人ひとり自分の力を発揮することが大切。だからこそ、任せることで自主性を育てようという風土があるのだと思います。

**柴田** 最初は不安でしたが、先輩方の丁寧な指導のおかげで、なんとか設計することができました。着工はこれからですが、早く完成した建物を見たいですね。

**柴宮** マンションの工期は1年以上かかるものがほとんど。基礎工事、鉄骨・鉄筋工事、大工工事、電気設備工事、左官工事、屋根工事、外装・内装工事、造園・外構工事など、工事ごとに違う職人さんが出入りします。一つの工事が遅れると次の工事ができません。いかにうまく段取りして、スケジュール通りに工事を進めるか。それが私たち工事担当の腕の見せどころ。工期通りに納得したものが完成したときはうれしいですね。

**山上** 完了検査のときは感無量だよ。

**柴宮** お客様の喜ぶ顔を見ると、これまでの苦



労も吹き飛びます。

**五十嵐** それは営業も同じですね。

**柴田** 設計も同じです。

**山上** 私たち工務課は、工事課の人たちの働きやすさを追求。報告書の形式を使いやすくするなど、工夫をしています。現場から「ありがとう」と言われたときにやりがいを感じますね。

建築事業部の可能性や  
自分の未来について語ってください。

**五十嵐** システム建築は、今は工場や倉庫が中心ですが、冷蔵・冷凍倉庫といった新しい分野の建築も開拓したいですね。そのためには、建築の知識はもちろん、商法、ビジネス実務法務といった営業に関する知識も身につけて、提案力を高めていきたいと思っています。

**柴田** 設計の手続きで役所に行くとき「川田工業って橋だけじゃないの?」と言われることが多いので、「川田にもちゃんと建築事業部がある」ということを、世の中に広めたいですね。

**五十嵐** 頑張ります(笑)。

**柴田** 鉄骨が大好きな私ですが、木やほかの素材と組み合わせたものや多層階の建物にもチャレンジしたいですね。それを実現するために、一級建築士の資格を取ることを目標にしています。

**柴宮** 私も一級建築士と建築施工管理技士の資格を取るために、資格学校に通っています。時間や費用面で会社がサポートしてくれるので、ありがたいですね。

**山上** 「安心して快適な生活環境の創造」を経営理念とする川田工業ですが、それは社内も同じ。働く人にとっても安心して快適な環境があります。これからも皆で力を合わせて、川田の建築事業部の未来を創っていきましょう。

理系女性社員クロストーク

# 「川田で働く」ということ

## Working in Kawada

一般的に、土木建築の分野で働く人は体育会系の男性のイメージ。しかし、川田工業では実際に数多くの女性社員が活躍している。理系の道を歩んできた3人の女性が川田工業に入社してどのように成長し、どんなキャリアを積み、これからどうしたいのか。本音を語ってもらった。



**石原 沙紀** SAKI ISHIHARA  
総務部 人事課  
2016年入社

**倉田 真麻** MAASA KURATA  
鋼構造事業部 工事部 工務課  
2012年入社

**宮嶋 彩夏** AYAKA MIYAJIMA  
建築事業部 設計部 設計二課  
2015年入社



と思います。

**石原** 私も会社説明会のとき、学生に仕事説明をしてもらうために他部署の方をお願いすることがあるのですが、本業が忙しいときでも嫌な顔一つせず協力してくれるので、ありがたいですね。

**宮嶋** 優しい、だけど、自分の中にはしっかりと芯がある。そんな人が多いかな。

**倉田** お客さまに対しても「誠実」、社員に対しても「誠実」な会社ですね。

任せて見守る。  
「人の川田」の人材育成法。

**石原** 入社1年目で、いきなり会社説明会を任されて、「すごい会社だな」と思いました(笑)。そのおかげで責任感が早く芽生えました。

**宮嶋** 若手社員でも任せてもらえる。しかも、「やりなさい」と言って放置するのではなく、しっかりサポートしてくれるから安心感もある。

**倉田** 見守られている感覚がありますね。それと、やる気次第でどんどんスキルアップできる会社だということを、自分の経験から実感しています。

**石原** 質問したときに、「自分ではどう思う？」って聞かれますよね。おかげで考える習慣もついたし、そうなると知識のつけ方も変わる。早く成長できますね。

**宮嶋** やりたいことができる、任せて見守ってくれる、だから成長できる。

**倉田** 成長できるから活躍できる。こんなにいい会社はないですよね。

**石原** そんな環境の中でバリバリ仕事をして、私もカッコいい女性になりたいです。

社訓は「誠実 技術 確実」。  
会社もそうだけど、人もそう。

川田工業ならではの風土ってありますよね。人の良さとか優しさとか。

**倉田** 私の上司も優しい人達です。結婚してからは、「早く帰らなくても大丈夫？」と心配してくれたり、時間配分しやすい仕事を担当させてくれたり。さりげない気遣いがうれしいですね。

**石原** 実際に産休・育休を取った先輩方は皆さん職場復帰されているので、女性にとって働きやすい環境だと思います。

**宮嶋** 仕事で分からないことで先輩に質問したら、自分が関わっている物件じゃなくても丁寧に教えてくれます。全員で協力する体制ができていところも、いいな

を担当しました。最初の1年半は、案件を受注するための計画図を描く設計を行い、2年目の後半から実施設計に携わりました。その物件も引渡しを終え、今から冷蔵倉庫の設計にとりかかるところです。どんどん新しいことにチャレンジさせてもらっていますね。

**石原** 私は入社後、人事課で主に求人を担当しています。会社説明会や学校に訪問し、先生や学生の皆さんに会社の魅力を伝えています。お二人のお話は今後の仕事に大変参考になります。

「毎日が楽しい」。  
それが、仕事の原動力。

**倉田** 施工計画や仮設構造物の計算は、自分で考えて進めていく仕事なので、とても楽しいですね。クレーンをどこに置くか、仮設構造物の耐力は十分か、作業スペースはあるかなど、さまざまなことを確認しながら作業を進めます。

**宮嶋** 現場での経験は、生かされていますか？

**倉田** そうですね。構造物を立体的にイメージできるかどうかは、実物を見ているのと同じで違ってしまうと思います。あと自分が失敗すると現場が進まなくなることも分かっているので、責任の大きさも実感しています。だからこそ、私の考えた施工計画で問題なく工事が

いる」ことを伝えたいので、ぜひ入社してからのキャリアを聞かせてほしいです。

**倉田** 入社後は橋梁の工事費の積算業務からスタートしました。2年目には「現場に出たい」と思うようになり、キャリアアップミーティング制度(P21参照)を利用し、希望を出したところ、5年目に念願がかなって工事課に異動。1年間現場で施工管理の仕事を経験したあと、現在は工務課で受注した橋梁の施工計画、仮設構造物の構造計算や図面作成などを行っています。

**石原** 女性が現場に出るって、大変じゃなかったですか？

**倉田** あまり意識していなかったのですが、いざ現場に出てみると、女性にはできないこと、逆に女性だからできることがあることに気づきました。といっても、できない所はサポートしてくれる体制で仕事を進められたので、大変さよりもやりがいを感じるの方が多かったですね。

**宮嶋** 現場を離れて工務課に移ったときは、どう思いましたか？

**倉田** 計画がしっかりしていないと現場が行き詰ってしまうのが分かり、工務についても勉強したいと思っていたところだったので、うれしかったですね。

**宮嶋** 着々とキャリアを積み上げていて素敵ですね。私は入社後、建築事業部で意匠設計

ことが分かり、当社を志望しました。

**宮嶋** 私は大学で建築学を専攻していました。建築業界の中でも、大型倉庫や工場、グループ会社ではロボティクスなどちょっと変わったものづくりを行っている川田工業に興味を持ちました。

**石原** そうなんですね。私は、海洋科学を専攻していて、キャンパスから海に出るときに品川付近の運河にかかる橋を下から見上げて、「カッコいいな」と思ったことがきっかけです。といっても、エンジニア志望ではなく、会社の魅力を広める人事や広報の仕事に興味があって...

**宮嶋** そうなんだ。理系なのに？

**石原** 卒業論文を書いている、自分には技術職は向いていないかなって(笑)。

**倉田** でも、新卒の募集では、人事や広報の仕事は少なかったでしょう？

**石原** 川田工業の会社説明会で職種について質問したら、本人のやる気があれば、十分可能性はあるとのことだったので。結果的に人事課に配属されたので、うれしかったですね。

性別に関係なく思い通りの  
キャリアを積める環境がある。

**石原** 採用担当として、学生に「素敵な先輩が

やりたいことを実現できる。  
それが川田を志望した理由。

**石原** お二人は女性エンジニアとして活躍されていますよね。当社に入社したきっかけは何だったのですか？

**倉田** 子どものころからものづくりが好きで、エンジニアになることを前提に高専に進学して、土木について学びました。私は石川県の出身。お隣の富山県発祥の川田工業には馴染みがあったので、調べてみると有名な橋梁を多く手掛けている



事前の準備で入札に備え  
各部署の総合力で受注する。

橋梁部門の中でも主に鉄道関連のお客さまを担当し、営業活動を行っています。橋梁工事のほとんどが公共事業なので、入札に参加します。受注を獲得するために膨大な資料を添付するので、見やすい資料づくりで当社の実績や技術をアピールすることも私の大切な仕事です。最近も、長野県の橋梁を受注しました。案件情報が新聞等で発表されたのが約1年半前。それから頻りに先方を訪問し、問い合わせがあったらすぐに対応するなど、お客さまとの良好な関係構築に努めました。一方で、架設予定地の情報を橋梁企画室に提供しつつ、入札時には設計、工場、現場の各担当者と相談しながら見積書を作成。苦労の末に受注できたときは、皆で手を取り合って喜びました。営業は、お客さまと会社との「かけ橋」。その役割を果たせたことでほっとしています。業界内では、まだまだ女性の営業は少ないですが、これからも営業力を磨き「川田の高橋さんだから」と選んでいただけるような存在になっていきたいと思っています。



街のシンボルとなる  
橋を手掛けたことが  
自慢です!



**高橋 佳恵**  
YOSHIE TAKAHASHI  
鋼構造事業部 橋梁営業部 東京営業課  
2011年入社

人と人の繋がりを大切に  
信頼関係の構築に努めています。



**山崎 郁孝**  
FUMITAKA YAMAZAKI  
鋼構造事業部 鉄構営業部 東京営業課  
1997年入社

案件ごとに営業戦略を立てて  
競合との違いをアピール。

川田工業の鋼構造事業部には橋梁部門と鉄構部門があり、私は鉄構部門に所属。誰もが知っているような「超高層ビル」、ドームやスタジアムなどの「特殊構造物」における鉄骨工事の営業を行っています。材料調達から、製作、工事まで一貫して行うことができるファブリケーター（鉄骨加工業者）の中でも、川田工業は日本でも数少ないSグレードの工場を保有しています。また、高い技術提案能力、工場製作から建方工事まで一貫して任せられる信頼性、長い歴史の中で積み上げてきた多彩な実績など、川田ならではの強みをバックボーンに営業活動をしています。お客さまはスーパーゼネコンがメイン。担当のお客さまのところに積極的に足を運んで、案件情報をいち早くキャッチできる信頼関係をつくること。また、狙った案件が受注できるよう、同業他社との差別化をする戦略を立て、提案することを心がけています。自分が描いた戦略通りのプロセスで仕事が受注できたときは、気持ちがいいですね。

橋はその街のシンボリック存在。  
その架設に関わる仕事を誇りに思う。

受注後も、契約関係の処理や各検査の対応窓口となり、営業として竣工までの全ての工程に関わります。その間にお客さまから変更の指示をされることも多く、対応がとても大変です。地域のこと、関連する事業のこと、さまざまな情報を踏まえた上で交渉に臨み、お互いに納得がいくものづくりができるよう心がけています。橋は街のシンボリックな存在。多くの人から関心が寄せられます。隅田川に架かる築地大橋の工事のFCクレーン（船のクレーン）一括架設の工事に立ち会ったとき、見学されていた方たちから、「どんな橋なの?」「いつ完成するの?」と、いろいろな質問を受けました。自分が関わる橋が、地域の人々に望まれ、期待されていることを実感できて、とてもうれしかったですね。ちなみに、この工事はTVのニュースでも取り上げられて、ちょっと誇らしかったです（笑）。設計・製作から工事まで一貫して請け負う川田工業だからこそ、プロジェクトを動かしていく醍醐味を味わえますし、とても魅力ある仕事だと日々感じています。

長期的視点で営業活動を行い  
いつの時代にも活躍できる人材でありたい。

鉄構部門では見積もりから受注までは営業が担当します。受注後は、工場と工事部門に情報を共有。工場では鉄骨を製作しそれをトラックで運び現場で工事が完了するまで、案件の入手から引渡しまで長期にわたって、お客さまと社内の各部署との調整役を務めます。製作や工事の途中で変更点が発生すると追加工事となるため、交渉が必要になります。お客さまとお互いの納得のできる交渉をすることも私の役割です。営業としては社内の利益を考えた動きが求められますが、お客さまからのご要望に対応することで良好な信頼関係を構築するなど、長期的な視野で物事を捉えることも大切にしています。首都圏においては2020年の東京オリンピック及びそれ以降再開発計画があり建設需要が高いことが見込まれますが、今後市場が厳しい時代になったときにも、今まで築き上げてきた信頼関係を活かし、どんな状況でも活躍できる営業マンでありたいと思っています。





関わった人が皆笑顔で  
終われる工事にしたい。

設計から製作、施工まで  
一括で請けるからこそその面白さ。

設計・施工の「一括発注方式」の工事の設計を担当しています。品質や経済性、維持管理性だけでなく、製作や施工のしやすさまで確認しながら設計できるところが、一括発注方式ならではの楽しさ。詳細設計では、橋桁のディテールだけでなく、橋桁の高さ、幅、板厚などの構成を設計し、お客さまと打ち合わせを重ねて決定します。製作や施工の途中に、お客さまから構造的な質問が来ることもありますし、各種検査のときも立ち会うため、担当案件が竣工するまで目が離せません。設計の仕事は工事の最も上流にあり、設計業務が遅れると、その後の工事すべてに影響してしまいます。問題点を早い段階で見つけ出し、リスクを排除しながらタイムリーに製作図を完成させることが設計部門の役割です。また、製作・施工を順調かつ安全に進めるには、狭隘部に溶接ができる空間を確保する、施工時に必要な治具を製作の時点で取りつけるなど、設計段階での工夫が欠かせません。各部署と綿密に打ち合わせを重ねながら、仕事を進めています。



櫻井 英子  
EIKO SAKURAI

鋼構造事業部 技術部 東京技術課  
2009年入社



さまざまな分野の専門家との  
意見交換で、成長が加速。

橋梁工事は、発注、調査・設計、工場製作、現場施工、維持管理の各段階を、異なる企業が担当するケースもありますが、川田工業では設計から施工完了まで自社で行います。それぞれの部署の専門家と意見交換しながら仕事ができるため、橋梁建設の知識が広がりますね。また上司や先輩のサポートも厚く、「維持管理性に配慮するとこっちの方がいいよね」「こうすると構造がシンプルになるよね」と、いろんな視点からアドバイスをいただけるので勉強になります。設計者としてさまざまな案件を手掛け、さらに経験を積み重ねることで、もっともっと成長したいですね。建設業は社会基盤を整え、それを維持する重要な仕事です。実際に防災や災害復興において橋梁が果たす大事な役割や、私たちの仕事の必要性を実感するたびに、この仕事の魅力を感じていますし、皆さんにもこの魅力をもっと伝えていきたいです。



岡田 広司  
KOJI OKADA

建築事業部 設計部 設計二課(意匠設計)  
2003年入社



挑戦を続けよう!!

多種多様な要求をとりまとめて  
設計図に盛り込む仕事。

私は建築事業部の設計部に所属し、意匠設計を担当しています。倉庫や工場など広い空間を実現する「システム建築」では、設計・施工を一括受注することが多いため、一つの案件に対して、計画段階から竣工まで、一貫してプロジェクトに携わることができるところが、魅力です。その他、「マンション建築」も手掛けています。設計担当者の業務には、工事が設計図書通りに実施されているかどうかを確認する工事監理業務も含まれます。各種施工図や製作図をチェックするのも担当者の役割です。お客さまと打ち合わせをして、その意向をくみとり、高品質で使い勝手のいい建物を提供することが私たちの使命だと考えています。建築には施主、設計者、施工者などさまざまな人が関わり、それぞれの立場から多様な要求が出ます。これらを取りまとめ、法的要件もクリアしながら設計図としてカタチにしていく仕事はとても難しいのですが、その分、やりがいも大きいですね。



複雑なカタチの建物に挑戦して  
スキルと実績を積み上げる。

私は工事部で施工管理や工務の仕事に10年間携わったあと、当初から志望していた設計部に異動になりました。現場での経験は、設計の仕事にも役立っています。自分が提案した設計が採用されて、カタチになったときには大きな達成感がありますし、その建物を長く使ってくださるお客さまがいることが何よりもうれしいですね。システム建築というと、あらかじめ部材等が決まっていて組み立てるだけというイメージがありますが、当社の場合はお客様の要望に応えるイージーオーダー。建物のカタチを生み出していく仕事は、やっているととても楽しいです。最近ではシステム建築の案件数も建物の規模も大きくなっていて、複雑な設計を要求されることも増えてきました。また、事業部として、システム建築、マンション建築に次ぐ新分野への挑戦も模索しています。今後ますますおもしろくなっていく川田の建築事業部で、今までやったことのない設計にも積極的に挑戦して、その実績やノウハウを先輩たちに伝えていきたいですね。





絶大な信頼を得る  
技術者になりたい。

各部署に的確な作業指示を出し  
心臓部として円滑に工場を回す。

四国工場は、鋼橋製作を中心とする川田工業の主力工場です。ここで製作された部材は、瀬戸大橋や明石海峡大橋など日本を代表する大型鋼構造物に使われています。私は、四国工場の橋梁技術課に所属。お客さまや当社の設計・架設部門、工場内の各部署と調整をしながら、品質の高い製品を製作するための生産管理を行っています。設計部門から設計図が届いたら、製作会議を開き全体の製作方針を決めます。そのうえで必要な鋼板、表面処理用の塗料などの材料を発注するための条件書や、製作をするための作業指示書を発行。また材料検査をはじめ、切断、加工、組立、溶接、仮組立、塗装の工程毎に出来形や品質の確認をおこない、お客さまに報告書を提出する作業もしています。設計・架設部門からは追加変更依頼の設計図も届きますが、その際は速やかに各部署に連絡。私の指示次第で、工期やコストに大きな影響がでるため、状況を十分に把握したうえで、的確な作業指示を行っています。



橋梁

忽那 太裕

MOTOHIRO KUTSUNA

鋼構造事業部 四国工場 橋梁技術課  
2015年入社

お客さまからも現場からも  
信頼を寄せられる技術者になりたい。

生産管理の仕事は、工場の心臓部として工場全体を円滑に回す役割。基本的には人と人のやりとりですので、積極的にコミュニケーションをとることを心がけています。現場に作業を指示するときは、単に書類を回すだけでなく、直接現場に足を運んで内容を理解してもらえように積極的に話し合いをしています。また、作業員の声を設計部門に届けることも大切です。これによって現場が製作しやすい設計図に改善されることも重要なことですので。そんな苦労が実って、無事に工場から部材が出荷されていくのを見ると、ほっとしますね。私の上司は指示が的確で、現場からもお客さまからも絶大な信頼を寄せられています。私も人間力を磨き、上司のように工場を円滑に回せる人材になりたいですね。川田工業には、若手にも重要な責任のある仕事を任せてもらえる環境があるので、どんどんチャレンジして経験を積み、早く成長したいと思います。



複雑な構造物に  
チャレンジ!

構造図を立体化して  
納まりや材料を検討する。

栃木工場は、生産量、技術力ともに国内でトップクラスの鉄骨製作工場です。クレーンレスで横流ししてボックス構造の鉄構パーツを生産する当社独自のシステムは、超高層ビルの柱の製作に威力を発揮しています。私は栃木工場の生産設計課に所属。製作図面の管理や、納まり検討、材料発注資料の作成が主な仕事です。まずは、スーパーゼネコンから提供された構造図面をもとに、3D-CADを使って立体的な鉄骨のモデルをつくります。建築の構造体が組み上がった姿をリアルに感じられるのですが、重要なのはそのあと。そのモデルに材料を入力してみると、「同じ個所にパーツが干渉している」「高強度材質の部材と一般的な材質の部材が併用されているが構造上大丈夫なのか」といった点を見つけることができます。この問題点の早期発見が私の使命。このまま見過ごして製作が進んでしまうと、手戻りが生じ工程に遅れが出てしまうため、慎重に細かいところまでチェックしつつ、スピードにも配慮しています。



鉄構

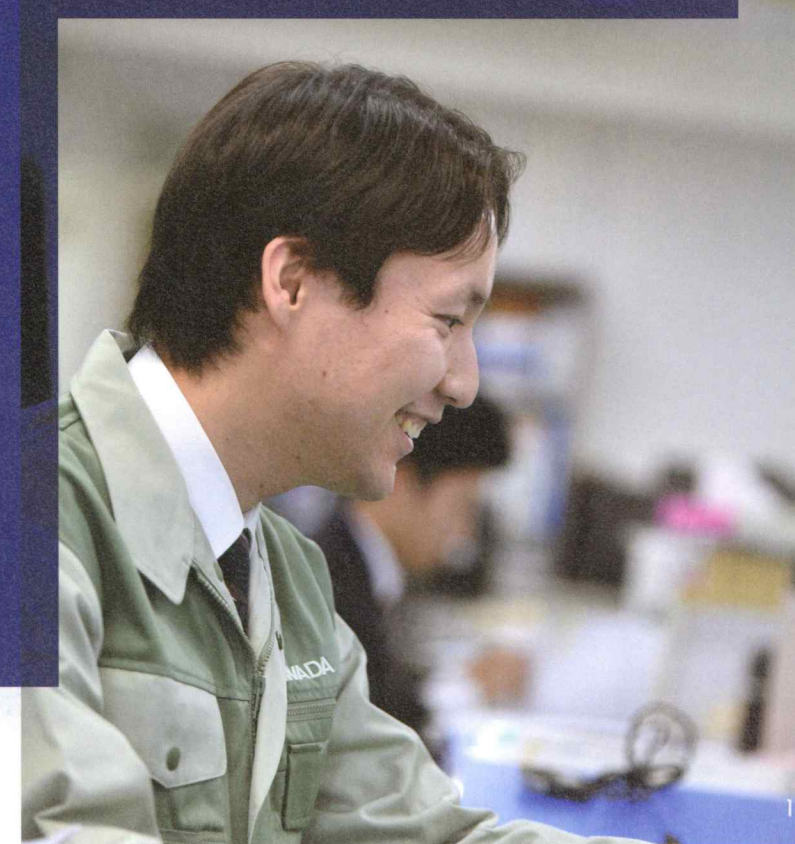
宝田 良春

YOSHIHARU TAKARADA

鋼構造事業部 栃木工場 生産設計課  
2011年入社

後工程に遅れが出ないように  
スピーディな仕事を心がける。

以前は生産技術課に所属し、工事現場でゼネコンと打ち合わせしながら工作図をつくる仕事を行っていました。ただ、製作のための設計にも興味があったので異動が決まったときはうれしかったですね。まだ経験が浅いので、複雑な設計になると分からないことも多く、作業に時間がかかってしまうこともあります。しかし私のところで業務が止まると、材料の発注も鉄骨の製作も滞ってしまいます。そのため期限を意識し、早めに上司に相談するようにしていますね。上司との距離感が近いので何でも相談しやすい雰囲気がありますし、聞けば丁寧に教えてもらえるので安心です。技術的にはまだまだ学ぶことが多い私ですが、鋼構造物のモデル図に部材ごと色分けして見やすくするなど、自分なりの工夫を盛り込んで仕事を進めています。とにかく今は場数を踏んで、早く正確にモデル図をつくれるようになり活躍していきたいです。





向笠 正洋

MASAHIRO MUKAIGASA

鋼構造事業部 工事部 東京工事課  
2011年入社

具体的な工事をイメージし  
先読みして架設計画を立てる。

首都高速道路1号羽田線の大規模更新工事において、橋梁の架設計画の立案や工程の検討を行っています。架設計画では、現場の条件や施工性を考慮し、細部に至るまで気を配って計画を立てることが大切。例えば、「どのように鉄骨部材を組み合わせるか」といった構造的なことから、「重機をどこから搬入するのか」「十分な作業スペースがあるか」「クレーンで部材を吊り上げる時に、周囲に障害となるモノは無いかなど、具体的に工事をイメージしながら段取りします。ときには、「安全に吊り上げるために、橋桁の寸法を変更したり補強の金具を追加する」といった構造改良を設計部門と一緒に検討することもあります。また、工程においても、作業エリアの調整から作業者のマネジメントに至るまで、細かいところに配慮。安全を最優先に考え、かつ、工期が遅れることのないよう気をつけています。緊張感あふれる現場ですが、自分が計画した工事が目の前でひとつひとつカタチとなっていく様子をリアルタイムに見ることができるので、やりがいがありますね。

注目度の高いプロジェクトの経験を  
今後の仕事に生かしたい。

このプロジェクトは、土木グループと鋼橋グループの計9社から成るメンバーで構成されています。工事を進めるにあたっては、発注者である首都高速道路(株)を始め、関係省庁、土木グループ、鋼橋グループ内の各部門(設計部門、製作部門、施工部門)、材料メーカー、協力業者など、打ち合わせ先が多岐にわたります。また、工期が10年と長いので、各社・各部門の担当者が途中で変わることも考えられ、あとで齟齬が生じたりすることがないように、打合せ内容を明確に記録するよう心がけています。また、自分が担当している業務内容についても情報共有することを常に意識。他人が見てもすぐに理解でき、かつ、加筆や修正も容易にできる書類の作成に努めています。本工事は過去にも例がない大規模更新工事で、社会的にも建設業界的にも注目度の高いプロジェクトです。この経験は会社にとっても私自身にとっても、大きな財産になるはず。今後も計画されるさまざまな大規模更新プロジェクトへ参加する機会があると思いますので、この経験を活かし活躍していきたいと思っています。



建物の施工管理の仕事で  
地域の人々の豊かな生活に貢献。

北陸事業部では、これまで培ってきた土木・鉄構・建築の分野で連携し、北陸エリアに密着した活動を展開しています。私は、オフィスや倉庫など建物の新築工事現場で、施工管理の仕事を担当。施工図の作成、確認、必要書類の作成などの業務を行っています。外壁やサッシなど鉄骨に取りつけるモノの納まりや仕上げを検討するだけでなく、重機の作業エリアや資材の搬入ルート確保など、工事に必要な仮設物についても綿密に計画。いざ工事が始まってから「あれがない」「これが入らない」という事態にならないよう、あらかじめ準備をしていきます。もちろん計画だけでなく、協力業者の実際の作業も管理します。現場に常駐しているため、図面で見ているものが実際に完成していく「過程」を見ることができるので、毎日が楽しいですね。学校や病院などの公共建築物から民間の倉庫やマンションまで、幅広い分野の建築物を手がけて経験を積めること、地域に貢献できることも、この仕事の魅力です。



吉川 将大

SHOTA YOSHIKAWA

北陸事業部 建築部 工事課  
2013年入社

建て物の  
「建て方」を知る。

現場所長になることを目指して  
懸命に勉強と経験を重ねる。

私の目標は現場所長になること。現場によって所長は変わりますが、どの人も高いスキルを持っていて、あこがれの存在です。この目標を達成するためにも数多くの経験を積んで、基礎工事から大工事、設備工事、外観・内観工事など、すべての工事に関する知識を身につけたいですね。そのためには、分からないことがあれば積極的に先輩や上司に相談し、問題を解決していくことが大事です。常に当事者意識を持って取り組むことが、自分自身の成長を早めるコツだと思います。今では施工管理の仕事に必要な「準備しておくこと」「注意すべきこと」の検討と段取りはできるようになってきたと思いますが、まだまだ目指す現場所長のレベルにはほど遠いです。これからも頑張って知識を磨き、経験を積み、まずは先輩から頼られる先輩になることを目指していきます。



何でも聞ける、いつでも聞ける。  
その安心感が、不安だらけの新入社員の  
背中をそっと押してくれる。

原 仕事には慣れてきたかな？

三原 はい。おかげさまで。

原 それはよかった。

三原 トレーナー制度のおかげです。配属が決まって、「ここがあなたの席ですよ」と言われて座ったのはいいけど、目の前にあるパソコンの使い方はもちろん、文房具はどこにあるか、何から手をつければいいのか、とにかく分からないことだらけ。正直、何を聞いていいかも分かりませんでした(笑)。

原 でも、誰に聞いたらいいかは分かったよね。

三原 はい。隣の席の田坂さんがトレーナーだったので、たくさん質問させていただきました。「何でも聞ける」環境があることが、心強かったですね。

田坂 最初は遠慮してあまり質問してこなかったよね。三原さんは表情に出やすいから「困ってるな」というのが分かりやすい(笑)。でも、なかなか聞いてこないから、こちらから声をかけていたかな。

三原 「こんなこと聞いていいのかわからないか」、「できないのは私だけかもしれない」と思って。今になって考えると、もっと気軽に聞けばよかったですね。

原 三原さんには週報を書いてもらって、田坂さんと相談しながらアドバイスを返していたけど、学ん

だことを自分のものにしようという姿勢を感じていたよ。

三原 頼っていいとはいえ、それに甘えず自立しなくてはと思っていました。といっても、原さんも田坂さんも隣の席ですし、いつもお二人に見守っていただいていたわけですが(笑)。実際、お盆休み前日の夕方、一日かけて描いた図面が間違っていたことに気づいてパニックになってしまい、「どうしよう」と思っていたら、お二人が残って手伝ってくださいました。あのときは、本当にありがとうございました。

原 新入社員としては、よくあるミスだからね。私たちとしてはどうってことはなかったけど、最後まで頑張って仕上げたのはえらかった!

## 「人の川田」をつくるトレーナー制度

トレーナー制度は、入社して右も左も分からない新入社員が、迷うことなく前に進めるようにと、年齢の近い若手社員がトレーナーとして新入社員をマンツーマンで指導するシステムだ。新入社員は、仕事をしながら必要な知識を身に付けることができ、トレーナーもまた教えることで、さまざまな気づきを得られる。その上にはOJT(On the Job Training)リーダーがいて、トレーナーの指導についてアドバイスをを行う。三位一体となって、お互いに成長することを目指す制度となっている。

「人の川田」。  
そのDNAを受け継いでいくためにも  
トレーナー制度の存在は不可欠。

原 トレーナーとして、どんなところに気をつけていた？

田坂 私が新入社員だったときのことを思い出して、自分がトレーナーにしてもらったようにしてあげようと思っていました。

原 具体的には？

田坂 答えを教えるのではなく、できるだけ自分で考えてもらうようにしていましたね。考える方法を教えるというか。

三原 そのおかげで、自分で調べられることは調べて、自分なりの考えを持って質問するようになりました。

原 設計の仕事は、先のことや背景も理解することが大切。設計する橋梁は毎回条件が違う。例えば、川の上にかかるものもあれば、道路の上にかかるものもある。周囲の環境やメンテナンス性も考慮して、条件に合わせて設計しないといけないから、自分で答えを導き出していく必要があるよね。

田坂 橋に同じものはないですからね。その都度、1から生み出していく仕事だから、橋の専門知識を身につけただけではだめで、考えたり創造したりする力を養っていかなくてはいけない。

三原 言われたことをそのままやるだけなら、仕事は早く進められるのですが、一つひとつ意味を考えながら、しっかりと仕事することを心がけていました。

原 トレーナー制度の成果が出ているようだね。川田工業がお客さまから支持される理由は、技術力と人間力。テクニカルスキルだけでなく、創造力や想定力といったヒューマンスキルの高い人材がいることが川田の強みだと思うな。

田坂 それが「人の川田」と言われる所以ですね。そしてそのDNAを脈々と受け継いでいくためにも、トレーナー制度の存在は大きいと思いますね。

トレーナーとしての経験を  
トレーナーになったときに役立てる。  
成長のサイクルは永遠に続く。

原 仕事の流れも分かってきたところで、次の目

標はある？

三原 まずは自分の担当物件を持って設計の実績を積み、後輩が入ってきても恥ずかしくないようにスキルアップしたいですね。また、橋梁設計のエンジニアとして活躍したいというのが入社時の動機だったので、将来結婚して産休育休で一時的に業務を離れたとしても、必ず復帰したいと思います。

田坂 川田では結婚して子育てをしながらも活躍している女性技術者はいるから、その目標は達成できそうだね。それから、三原さんがトレーナーになったときも今回の経験を活かしてほしいと思う。

三原 はい。私がトレーナーになったら、田坂さんや原さんのご指導を思い出しながら、トレーナーの自主性を引き出すようなアドバイスをしたいです。

原 トレーナー制度は半年で終了したけど、私たちの関係性は終わるわけではないからね。これからもお互いに教え教えられるながら一緒に成長していこうね。



TRAINEE

トレーニー

三原千明 CHIAKI MIHARA

鋼構造事業部 技術部 大阪技術課  
2017年入社



TRAINER

トレーナー

田坂康介 KOSUKE TASAKA

鋼構造事業部 技術部 大阪技術課  
2011年入社



LEADER

OJTリーダー

原考志 TAKASHI HARA

鋼構造事業部 技術部 大阪技術課  
2005年入社

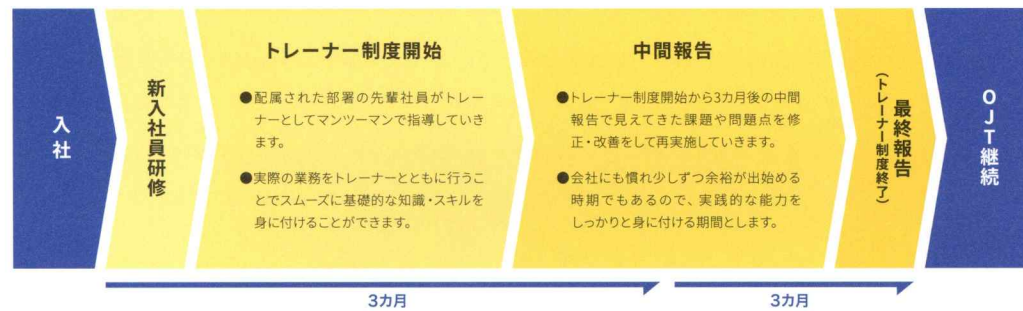
個性を伸ばしエキスパートを育てる

## 川田の教育制度

川田工業では、新入社員が職場に早く馴染むためのトレーナー制度をはじめ、橋梁建設のエキスパートを生み出すジョブローテーション制度、キャリアアップに合わせた階層型の研修体系、自分のキャリア形成について相談できるキャリアアップミーティング制度など、有益でユニークな教育制度を用意。仕事をしながら成長できる、自分がやりたいことが見えてくる。そんな環境を整えています。

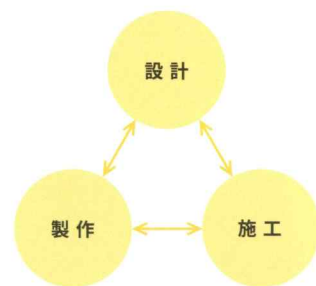
### トレーナー制度

何を聞いていいかわからない、誰に聞けばいいかわからない、といった新入社員特有の悩みを解決し、安心して業務に取り組んでいただくために導入した制度です。OJT(On the Job Training)の一環として実施されるもので、新入社員にマンツーマンでトレーナーがつき、早く職場に馴染めるよう指導。業務に必要な知識や技術を身につけ、能力を向上させることができます。トレーナーの上にはOJTリーダーがいて、入社3か月後、6か月後に指導実績の検証や改善を実施。達成度や問題点を把握し、一人ひとりの成長を支援しています。



### 橋梁技術者ローテーション制度

橋梁部門に配属された技術系新入社員は、3つの部署すべてを必ず経験。ローテーション終了後、本人の適性や希望を考慮の上、配属先が決定されます。橋梁建設のエキスパートを目指していただくための制度です。



### 各種研修

#### 【階層型研修】

- ◎ 新入社員研修(グループ会社合同)
- ◎ フォローアップ研修(入社1~3年目社員)
- ◎ 入社6年目研修
- ◎ 役職別新任研修(主任、係長、管理職)

#### 【目的別研修】

メンタルヘルス、コンプライアンス(法令順守)等、社会人力向上のための各種研修会

### 資格取得奨励制度

会社指定の取得奨励資格は取得した際に報奨金(各種1級技術検定、土木鋼構造診断士、税理士、建設業経理士など)や手当(技術士、一級建築士など)を支給し、社員の資格取得意欲の向上を図る制度です。

### キャリアアップミーティング制度

年に1回上司と部下との間で行われる面談制度です。前年度の仕事の振り返りや今後の課題、仕事内容や勤務地に関する希望や、個人的な諸事情について意見交換を行い、個人のキャリア形成をサポートしています。また、面談によって人事異動に際し希望勤務地が考慮されることも。この制度は、上司と部下とでコミュニケーションを通わせて、相互の信頼関係を強固にする目的もあります。

## 福利厚生

住宅関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社員寮 …… 各地区(東京・大阪・富山・栃木・香川)に単身者向けワンルーム型の社員寮を完備</li> <li>● 家賃補助制度 …… 家賃の一部を会社が補助する制度</li> <li>● 借上社宅制度 …… 結婚後も家族で住むマンション等を会社が契約し、家賃の一部を使用料として徴収する制度</li> <li>● 住宅ローン補助制度 …… 自宅取得費用を会社が助成する制度</li> <li>● 現場派遣者支援制度 …… 現場派遣時の住居無償貸与(水道光熱費会社負担)、帰省旅費の支給</li> </ul>
育児・介護共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 所定労働時間外の労働および深夜業労働の免除(育児は小学校入学まで)</li> <li>● 育児・介護による勤務時間の短縮・変更(育児は小学校入学まで)</li> <li>● 配置に関する配慮 …… 育児および介護を行う社員に対する人事異動は、個々の状況に応じた配慮を行う</li> </ul>
育児関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 産前・産後休暇 …… 産前42日間(多胎妊娠の場合は98日間)および産後56日間</li> <li>● 子の出生のための特別有給休暇 …… 3日間取得可能 ※男性社員も対象</li> <li>● 育児時間 …… 生後満1年に達しない子を育てる女性社員を対象に、1日2回30分ずつ、育児するための時間を取得できる制度</li> <li>● 育児のための特別有給休暇 …… 2歳に満たない子を養育する社員が育児を目的として10日間取得可能</li> <li>● 育児休職 …… 子が2歳に達するまで取得可能</li> <li>● 看護休暇 …… 小学校入学までの子を看護するために年間6日(子が2人以上の場合は11日)、半日単位で取得可能</li> <li>● 子供手当 …… 子1人につき毎月定額支給</li> </ul>
介護関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 介護休職 …… 対象家族1人につき3回、通算95日間取得可能</li> <li>● 介護休暇 …… 対象家族が1人の場合は年間5日、2人以上の場合は10日、半日単位の取得可能</li> </ul>
財蓄関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社員預金制度</li> <li>● 財形貯蓄制度</li> <li>● 社員持株会 ほか</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 労働組合</li> <li>● 社員食堂</li> <li>● 永年勤続表彰、優良工事表彰 等各種表彰あり</li> <li>● 産業カウンセリング制度 …… 社員がメンタルヘルスやキャリアアップ等に関して、社外の産業カウンセラーに気軽にカウンセリングを受けられる制度</li> </ul>



川田工業株式会社